ナポリ啓蒙研究文献案内

奥田 敬*

1. はじめに——ナポリ啓蒙の地域的限定と時期区分——

11世紀中葉のノルマン人征服以降南イタリアの地に存続した「ナポリ王国」の領域は、今日のイタリアの行政区画でいえば、アブルッツォ、モリーゼ、カンパーニア、バジリカータ、プーリア、カラブリアの諸州のほぼ全域、およびラツィオ州の南部に相当する。面積約7万5千km²、イタリアの総面積（約30万km²）の4分の1を占める、1861年の統一以前にあっては半島で最大の国家であった（尚、面積約2万5千km²のシチリア島も含めて「両シチリア王国」と呼ばれる場合も多いが、「シチリア王国」は独自の議会を有するなど些か歴史的事情を異にしているので、とりあえずは別個扱いとする）。その首都ナポリは中世後期以来ヨーロッパ最大の都市、18世紀末に至っても人口約50万人（王国の総人口は約500万人）を数え、ロンドン、パリに次ぐ第3のメガロポリスとして全西洋的規模の《思想の交流》（フランコ・ヴェントゥーリ）の一大結節点となった。本稿は、18世紀にこの地で活躍した啓蒙思想家たちと彼らの改革運動に関する基本的な研究文献の紹介を目的としている¹⁾。

このナポリ啓蒙は後進国における啓蒙（国家・経済・社会の近代化）の典型として同時期に北方で展開されたスコットランド啓蒙と双璧をなすものと言える。しかもそれは、挫折した啓蒙である点において後者と著しい対照を示している。その苦渋に満ちた歩みを辿ることは、普遍的な原理として聳立する「西欧近代」の裾野の広がり——諸国民によって構成される重層的な歴史の地勢——を知る上で小さからぬ意義を有するはずである。尚、ナポリ啓蒙と並んでイタリア啓蒙の一方の雄たるミラノ啓蒙については、堀田誠三氏の一連の論稿（[1]～[7]）を参照されたい²⁾。

さて、後進国の啓蒙を研究する場合、外来文化の受容とそれに対する伝統的社会の反応の問題が重要なことは言うまでもない。ナポリ啓蒙もまた、西欧近代思想史の共時的展開と南イタリア史の通時的展開の複合的視点から把握されねばならない。そこ

* おくだ たかし 一橋大学社会科学古典資料センター

1) 尚、筆者は後出の別稿[102]～[104]でもナポリ啓蒙関係の研究文献を若干指示しておいたため、本稿では極力それらとの重複を避けるように努めた。別稿の参照も庶幾う次第である。

2) 本文中の[1]～[194]については巻末参考文献一覧参照。

で先ず、思想的局面の推移に即しつつ近代ナポリ王国史の段階区分に關説しておく。

(1)南イタリアの近代思想史の出発点を求めるとすれば、やはりルネサンス期の人文主義にまで遡る必要がある。但し、南イタリアの諸都市国家のそれがマキアヴェッリに集約されるように「市民的」であった(Civic Humanism)のと対比的に、「宮廷的」な性格を濃厚に帯びていた。15世紀のアラゴン王朝時代の「黄金期」ナポリ王国の人文主義者たちに関する最近の研究[8]は、これを「封建的人文主義」(Feudal Humanism)なる概念で捉えようとしたものである。

(2)南イタリアのルネサンスにはまた、サレルノ大学医学部の創立に端を発して、ブルーノ Giordano BRUNO (1548—1600) やカムパネッラ Tommaso CAMPANELLA (1568—1639) に代表される独特な自然哲学——ガリレオとの比較が問題となる——の伝統が脈打っていた。その延長線上にやがて出現するのが17世紀中葉の「探求者たちのアカデミー」(Accademia degli Investiganti)である。[9]は、この方面に関する我が国で最初の本格的な研究である。

(3)1224年に皇帝フリードリッヒ2世によって設立されたナポリ大学は、元来が神聖ローマ帝国の官吏養成機関であった。16世紀初頭以降南イタリアの地が「副王国」(Viceregno)としてハプスブルグ=スペイン帝国の版図に編入された後も、その出身者は帝国の地方統治の枢軸を担う所謂「市民層」(ceto civile)として、在来の封建領主層と社会経済的な基盤においては癒着・混交しつつも、政治・イデオロギー的には相対的に独立した立場を保持して、国制史上「法服貴族の共和国」(Respublica dei Togati)とも称し得る事態を招来せしめた。彼らの最先進部分によって唱導されたのが所謂「司法権主義」(giurisdizionalismo)である。これは直接的にはナポリ王国への宗主権を主張するローマ教皇庁に対する政教分離の要求から出発して反教権的な国権優位論へと至るものであるが、その総帥F. ダンドレーア Francesco D'ANDREA (1625—1698)に見られるがごとく、大陸における近代自然法思想の公法的展開の典型ともいえる側面を有している。[10]が、このナポリ法学派研究のための基礎的視角と豊富な書誌を提供している。尚、17世紀南イタリア史の近年の研究動向に関しては、[11]が詳しく紹介している。

(4)スペイン継承戦争とともに開幕した18世紀の前半は、南イタリアにとっても激動の時代であった。1701年にスペイン王位を獲得したブルボン家に服属したナポリ王国は、1707年にはオーストリア=ハプスブルグ帝国の領有に帰した。1734年、ポーランド継承戦争の混乱に乗じてスペイン=ブルボン家出身の幼王カルロを推載して宿願の独立を達成すると漸く相対的な安定期が訪れるが、その下で40年代に着手された諸改革にしてもオーストリア継承戦争の最中の国際情勢によって大いに制約を受ける結果

となった。だが、この時期にはアルプス以北から続々と到来するニュートンやロックを始めとする新思想の賛否をめぐる議論が沸騰して、ナポリの思想界はかつてない活況を呈した。そしてまた、既にオーストリア支配下においても英仏経済学の間接・部分的な影響を受けた重商主義的政策の試みが見られたのである。このナポリ「初期啓蒙」(Pre-illuminismo)の世界に関しては、筆者は現在ヴィーコ Giambattista VICO (1668—1744) と並ぶ当時の代表的な思想家ジャンノーネ Pietro GIANNONE (1676—1748) を主題とする別稿を準備中であるので、文献紹介もその機会に譲りたい。ここでは必読文献として [12] 及び [13] を、またアンソロジーとして [14] を挙げるにとどめたい。[14] には、ナポリの思想家としては、リッカルディ Alessandro RICCARDI (1660—1726)、C. グリマルディ Costantino GRIMALDI (1667—1750)、ドーリア Paolo Mattia DORIA (1668—1744)、ブロッジヤ Carlo Antonio BROGGIA (1698—1767) の著作が抄録されている。

(5)「初期啓蒙」の社会思想が未だ法学的な思惟を基調としていたのに対し、18世紀後半のそれは英仏経済学の全面的な受容と展開を特色とする。世界最初の経済学講座として1754年にナポリ大学に新設された「商業と機械学」の講座へのジェノヴェージ Antonio GENOVESI (1713—1769) の就任は、これを象徴する歴史的事件であった。彼とその弟子たちによって展開された「ナポリ啓蒙改革運動」こそが次節以下の主たる対象である。

(6)しかし、こうして始まったナポリ啓蒙の前途には多大の困難が待ち受けていた。1764年の「大飢饉」は王国の経済構造の脆弱性を瞭然と示すものであった。それ以後本格化した啓蒙思想家たちの政府機構への参画も、旧来の政治的支配層の頑強な抵抗に遭って、改革は容易に進捗しなかった。とかくするうちに1789年フランス革命が勃発すると、それ以前の70年代辺りから南イタリアの各地に組織されていたフリーメーソン系結社を媒体として共和主義思想の醸成を見るに至った。経済的な漸進的改革主義(国民経済論)は、政治的な急進的革命主義(民主権論)によって内部からも侵食されていった。従って、18世紀最後の10年間はナポリ啓蒙の解体期であり、「ジャコバン主義」(giacobinismo)の段階でもある。この間の消息については、さしあたり [15] を参照されたい。

(7)この南イタリア・ジャコバン派の政治的力が問われたのが、1799年の「パルテノペア共和国」(ナポリ革命)であった。それが僅か半年にして潰えると、王政復古反動の暗い時代を迎え、彼らの大部分は、処刑されるか、或いは亡命か転向かの選択を迫られた。1806—15年の10年間のフランスの軍事的占領期(dicennio francese)はナポリ啓蒙の部分的な復活ともいえる側面を有している。だが、そのとき政治経済学は、不徹底ながらも——劫ってそれゆえに——封建制の廃止によって地主的経営の基盤

を固め、名望家支配的な君主政下で政治参加を保証された、所謂「南部型農業ブルジョワジー」(borghesia agraria meridionale)の覇権掌握に伴い、かつての批判的理論から体制的科学へと機能転化を遂げていたのであった。この時期主流を占めるのは、政治的には「穏健派」(moderati)に属するテクノクラートたちであり、1806年に設立された「ナポリ王立自然科学奨励協会」(後出[63],[64]参照)が彼らの最大の拠点となった。やがて1820—21年の革命以降になると、南イタリアでも「炭焼党」(Carboneria)を始めとする「民主派」(democratici)の活動が盛んになるが、これは寧ろイタリア統一(Risorgimento)の直接の前史に属するといえよう。

2. ナポリ啓蒙(及び18世紀イタリア史)に関する一般的著作:通史・書誌・辞典・史料集

18世紀ナポリ王国史については、[16]が、小著ながら最近の研究動向を吸収して論点を手際よく整理している上、巻末にかなり詳細な年表とビブリオを備えていて必携の文献である。18世紀イタリア史の全体に関してこれに相当するのが、[17]であり、60頁余りのビブリオが極めて貴重である。同書には英訳(*Italy in the Age of Reason 1685—1789*. London, Macmillan, 1987.)もあるが、ビブリオが省略されているのが残念である。尚、18世紀イタリア史研究の近年の動向を窺うには、[18]も有益である。

近代ナポリ王国史の通史としては、[19]が最新の成果であり、1500年から1860年までの時期をフォローしている。全時代にわたる通史としては、本来はナポリ市史であるが、[20]が不動の位置を占めている。また、イタリア史の全体に関しては、[21]が出发点に据えられるべきである。これには補巻ともいふべき *Storia d'Italia, Annali* がテーマ毎に編集されて1978年以降刊行されており、その構成を一瞥するだけでも現代イタリア歴史学の関心が奈辺に存するかが掴めるであろう。参考までに、既刊の各巻のテーマを次に掲げる。「封建制から資本主義へ」「写真でみた1845～1945年」「文化および社会のなかの科学と技術」「知識人と権力」「農村景観」「自然経済と貨幣経済」「病気と医学」「居住形態と地域」「教会と政治権力」。

さて、イタリア啓蒙全般に関しては、どうしてもここでフランコ・ヴェントゥーリの名を逸することはできない。現在もなお刊行中(既刊6冊)のその主著[22]は、イタリア史の枠を遙かに超えた18世紀ヨーロッパ研究の金字塔としても燦然と輝いている。ヴェントゥーリの膨大な著作目録は、トレヴェリアン講義の邦訳[23]の巻末にも付けられているが、最近では献呈論文集[24]の巻頭のものがある。

ナポリ啓蒙に関する大きな通史は未だ書かれていない——近刊の予告されている[22]の第5巻第3分冊がそれに近いものとなろう——が、その概略を知るには、[25]

と〔26〕が参考になろう。〔25〕は英訳論文集〔27〕にも収録されている。

近代イタリア史研究のための書誌としては、先ず二次文献については〔28〕があり18世紀にも若干言及されている。〔29〕は一次史料も含む個人文庫の目録であるが18世紀関係は少ない。ナポリ王国史に関しては、全時代にわたるものであるが、〔30〕が重要である。尚、我が国におけるイタリア近現代史（17世紀以降）関係の文献の所在は、〔31〕によって検索できる。同書は近く改訂増補版が刊行される予定である。

一次史料に関しては、〔32〕があるが、これはイタリア各地の国立文書館系列の公文書館に限られている上、それらの所蔵する文書の概要を記しただけで、*Pubblicazioni degli Archivi di Stato* として実際に目録化されている史料は全体のごく一部に過ぎない。南イタリアにおいては特に史料整理の立ち遅れは深刻であり、その現状と問題点については、〔33〕を一読されたい。

次に辞典類に移ろう。イタリアの人名辞典としては〔34〕が、参考文献の指示も充実して非常に完成度の高いものとなっているが、31巻目にして漸く“D”の項目に入ったところである。その欠を補うためには、ナポリ王国に関しては随時〔35〕～〔38〕等に当たってみる必要がある。また、地名辞典——乃至地方史研究の書誌——としては、〔39〕及び〔40〕が役立つことが多い。〔35〕～〔40〕は Bologna の Forni 社から復刻されている。また、地域研究のためには〔41〕を始めとするラテルツァ社の都市史研究のシリーズ *Le città nella storia d'Italia* も有益である。現在までに旧ナポリ王国の都市としては、Bari, Lecce, Capua, Avellino, L'Aquila, Catanzaro, Crotone が刊行されている。

ナポリ啓蒙の原典のアンソロジーとしては、緻密な文献学的考証を踏まえた〔42〕が常に座右に置かれなくてはならない。これには、ジェノヴェージを始めとして、ロンガーノ Francesco LONGANO (1729—1796), D. グリマルディ Domenico GRIMALDI (1735—1805), F. グリマルディ Francescantonio GRIMALDI (1741—1784), フィランジェーリ Gaetano FILANGIERI (1753—1788), パガーノ Francesco Mario PAGANO (1748—1799), ガランティ Giuseppe Maria GALANTI (1743—1806), パルミエーリ Giuseppe PALMIERI (1721—1793), デルフィコ Melchiorre DELFICO (1744—1835) らの代表的なナポリ啓蒙思想家の著作が抄録されている。他に、近代ナポリ王国史に関する史料集としては〔43〕、または18世紀イタリア史全般については〔44〕と〔45〕が参考になろう。〔44〕と〔45〕は“*Documenti della storia*”と題された史料集のシリーズに含まれている。尚、ナポリ革命に関する一次史料集としては〔46〕がある。

ここで経済学史関係のツールをまとめて掲げておこう。先ず、イタリア経済学文献の書誌としては〔47〕が極めて質の高いものであるが、南イタリア関連では蔵書構

成そのものが不十分と言わざるをえない。〔48〕や〔49〕になると、イタリア以外の文献まで対象としているので尚更である。また、イタリア経済学古典の集成としては、周知のとおり〔50〕が存在し、南イタリア出身ではプロッチャ、ガリアーニ、ジェノヴェージ、F. ブリガンティ Filippo BRIGANTI (1724—1804)、フィランジェーリ、パルミエーリ、デルフィコ、カンタルーポ Domenico DI GENNARO, duca di CANTALUPO (1730—1803)、カラッチョロ Domenico CARACCILO (1715—1789)らの著作が収録されているが、そのテキストは今日では文献学的にみて問題が多い。図書館等での蒐集方針としては寧ろ〔42〕の解題や注を参照しつつそこに収録された文献の原典を求めるほうが適切であろう。

南イタリアの経済学史の通史としては、未だに〔51〕及び〔52〕を質量ともに超える書は現れていない。イタリア全体については、〔53〕～〔55〕などが標準的であり、最近では〔56〕～〔58〕などが刊行されている。〔58〕は「経済学の制度化」の国際プロジェクトの一環として編まれたものである。大学での講座と並んで制度化のもうひとつの支柱たる学会組織（アカデミー）に関しては、古くは〔59〕があり、近年では〔60〕の問題提起をうける形で、経済学に限らず農学や土木工学を始めとする自然科学系の様々な学会も対象としてイタリア各地で研究が進められている。ナポリ王国に関しては、〔61〕の先駆的な調査があり、〔62〕～〔65〕などが続いている。後出の〔176〕や〔181〕も一面ではこの系列に属している。尚、特に農学に関していえば、イタリア全体については〔66〕、南イタリアについては〔67〕が書誌として現在でも参考になる。

「思想の社会史」、すなわちその具体的な存在形態ということでは、出版の問題も重要である。この方面では〔68〕が基本的な書誌を提供している。最近の研究動向に関しては〔69〕を参照されたい。

以上の他に、経済学を中核とするナポリ啓蒙が如何なる社会経済的現実の中で展開されたかを知る上では、それぞれ主題的にはやや特殊ながらも、〔70〕～〔81〕などの研究も有益な書誌的情報を多数含んでいる。〔74〕と〔76〕は18世紀後半の「反封建制論争」に関するもの。〔71〕と〔78〕と〔79〕はスペインのメスタと類似した王領地での羊の移動放牧を統括する「フォッジャ関税局」とその改革を巡る論争を扱ったもの。〔75〕は森林問題に関する論議。〔77〕はリスボン大地震と並ぶ18世紀の2大災害であった1783年のカラブリア大地震が同時代人に及ぼした社会的・文化的影響を追求したもの。〔81〕は啓蒙思想と民衆文化の接点を考察したものである。尚、南イタリアの社会経済史研究に関しては枚挙に遑ないが、さしあたり現時点での総括と今後の展望を窺わせるものとして、〔82〕～〔85〕を指摘するに留めよう。

さて、冒頭でも述べたように、ナポリ啓蒙の展開にとって外来文化の受容の問題は非常に大きな意味を持っている。そこで最後に主として英仏の思想家たちのイタリア

における反響を扱った研究を挙げておこう。[86]～[99]等が書誌的情報を含むものとして役立つであろう。一方、イタリア啓蒙が他国でどのような反響を呼んだかという点については研究はまだ遅れている。ヴェントゥーリの一連の研究を別とすれば、南米植民地の独立運動へのナポリ啓蒙の影響を検討した[100]やドイツにおけるヴィーコとフィランジェリを受容史を辿った後出[142]などが目につく程度である。この分野に関してはさしあたり[101]が出発点に据えられるべきであろう。

3. ナポリ啓蒙思想家たちに関する個別研究

ナポリ啓蒙の始祖アントニオ・ジェノヴェージについては、拙稿[102]～[104]で文献紹介も加えておいたので参照願いたい。これらを執筆した段階では未見であった文献として、[105]と[106]を追補しておく。

18世紀ナポリ史上最大の政治家として啓蒙改革運動の帰趨に多大の影響を及ぼした摂政ベルナルド・タヌッチ(1698—1783)については拙稿[104]でも言及しておいたが、全書簡集[107]の完結が待たれるところである。研究書としてはさしあたり[108]と[109]が基本であろう。

1751年刊の『貨幣論』によって経済学史上に異彩を放つフェルディナンド・ガリアーニについては、[110]が既に定本的なテキストとして存在している。その多才な活動の概観は、[111]～[113]等によって捕捉できよう。わが国でも、[114]～[116]等の研究が進められている。

ナポリ王国の事実上の蔵相として18世紀末の財政改革に取り組んだジュゼッペ・パルミエーリについてもやはり拙稿[104]で簡単に触れておいたが、詳しくは前出[70]の当該章の他、[117]～[120]等を参照されたい。尚、パルミエーリの出身地であるLecceを中心とするサレント半島の啓蒙思想家たちのアンソロジーとして[121]があり、T. プリガンティ Tommaso BRIGANTI (1691—1762), F. プリガンティ, プレスタ Giovanni PRESTA (1720—1797), モスケッティーニ Cosimo MOSCHETTINI (1747—1820), ガリャルディ Giovan Battista GAGLIARDI (1758—1823), パルミエーリ, アンドリーア Nicola ANDRIA (1748—1814), アルディーティ Michele ARDITI (1746—1838), アストーレ Francesco Antonio ASTORE (1742—1799), ファルコニエーリ Ignazio FALCONIERI (1755—1799), マルージ Giovan Leonardo MARUGJ (1753—1836), ミリツィーア Francesco MILIZIA (1725—1798)らの著作が抄録されている。ナポリ啓蒙の地域的な展開を知る上で貴重な書物である。ちなみに同書でも重要な位置を占めているフィリッポ・プリガンティについては[122]が詳しい。また、その父トンマーゾ・プリガンティの主著『修道院領没収論』(1717年)は、[123]として復刻されている。

18世紀南イタリアの開明的貴族の代表ともいえる経済学者・農業改良家セミナラー侯爵ドメニコ・グリマルディについては、[124]と[125]がまとまった研究としてある。[125]には彼の『南カラブリア農業経済論』（1770年）の復刻も収められている。その弟フランチェスコ・グリマルディは、ルソーを批判した『人間不平等論』（1779—80年）で特異な社会思想家として注目されているが、研究は殆ど進んでいない。[126]が、18世紀南イタリアの歴史叙述を論じる中で彼のいま一つの主著『ナポリ王国年代記』（1781—83年）に比較的多くの頁をあてている程度である。

J. F. ムロンの『商業論』の評注付イタリア語訳（1778年）を刊行し、ジェノヴェージの経済学講座の有力な後継者とも目されていたフランチェスコ・ロンガーノに関する研究も乏しい。[127]が唯一のまとまった文献のようである。

ジェノヴェージ及びその弟子の第一世代が活躍した18世紀の50～60年代から次に掲げる彼の若い弟子の世代による政府機構への参画が本格化する80年代以降にかけての時期は一種の端境期のような印象を与えるが、決してそうではない。この時期の南イタリアの経済思想の研究は相対的に遅れているが、少なくとも[128]～[132]のような文献が参照されるべきである。[129]は「最高商務法院長」であったジョヴァンニ・バッティスタ・マリーア・ヤンヌッチ（1698—1770）の膨大な未刊手稿『ナポリ王国商業経済論』の復刻で、別冊として伝記的研究が付けられている。[130]は歴史家でもあったミケーレ・デ・ヨリオ（1738—1806）が編纂した海事法典の校訂版で、商業自由論としても看過できない。

『立法の科学』（1780—91年）で全ヨーロッパ的な名声を博したガエターノ・フィランジェーリについては、先ずその主著の新版として[133]があることを紹介しておく。パンジャマン・コンスタンの『評注』も収録されていて、18世紀の啓蒙改革思想と19世紀の自由主義との連続と断絶を見る上で興味深い。完璧な校訂版とは言い難い。他に時論的小著の復刻としては[134]があり、Raffaele Ajelloの解題が有益である。研究文献としては比較的新しいところで、[135]～[142]及び後出[162]等を挙げておこう。

ナポリ啓蒙の記念碑的著作ともいべきジュゼッペ・マリーア・ガランティの『両シチリア王国誌』（1786—90年）は既に校訂版[143]が刊行されており、これ以外にも[144]～[146]等の著作が復刻され、また未刊の自伝草稿[147]も翻刻されていたが、特命の「王国視察官」として南イタリアの各地方について書き残した調査記録を始めとする膨大な未刊手稿も含む待望の『全集』*Opere di Giuseppe Maria Galanti*の刊行が遂に開始された。既刊分は2冊、[148]と[149]である。[148]は先に試作された[150]の増補版、[149]は[145]の校訂版である。研究文献としては、基本書たる[151]の他に、[152]～[158]等を挙げておこう。[156]は全集刊行を記念したシ

ンポジウムの報告集、[157]もその周辺に関わる学術情報である。

1799年のナポリ革命に際して共和政府の立法部の中心となったフランチェスコ・マリオ・パガーノについても、現在ジェノヴェージの『経済学著作集』を刊行中のナポリの *Istituto Italiano per gli Studi Filosofici* で全集が計画されている模様である。[159]はその編者による講演記録。[160]は詳細な書誌のついた伝記的研究。その他[161]や[162]も参考になる。

南イタリア・ジャコバン派の最左翼に位置し、共和政府崩壊後パガーノ同様に処刑されたヴィンチェンツォ・ルッソ(1770—1799)に関しては[163]～[165]等が代表的な研究である。

『1799年ナポリ革命史論』(初版1801年、第2版1806年)の著者ヴィンチェンツォ・クォーコ(1770—1823)については、Pasquale Villaniの解題付の同書の校訂版が[166]として刊行されている他、今日では入手困難な部類に属するが、[167]と[168]が *Scrittori d'Italia* 叢書に含まれている。研究としては、[169]～[173]等がある。

経済的自由主義の旗手として長期に亙る活動を展開したメルキオッレ・デルフィコについては、既に全集[174]も編まれているが、多くの未刊手稿が残されており、最近その蔵書目録も含む[175]が出版された。[176]も膨大な一次史料を駆使した研究である。[177]は書誌的に重要な研究であるが、全集同様で現在では入手が難しい。他には[178]のような研究も現れている。

南イタリアにおけるスミス、リカードウらのイギリス古典派経済学の普及の中心人物となったカニャッツィ Luca de Samuele CAGNAZZI (1764—1852)については、その主著『プーリア王国人口論』が[179]として復刻されているほか、その自伝草稿も[180]として出版されている。[181]や[182]のような研究も行われている。

最後にフランス革命期からウィーン体制期にかけて活躍したその他の思想家たちについての文献を纏めて紹介しておこう。ジャコバン派関係では、[183]～[191]等が重要であろう。[183]はエレオノーラ・デ・フォンセカ・ピメンテル Eleonora de FONSECA PIMENTEL (1752—1799)が編集したナポリ革命政府の広報紙の校訂版で、人名検索等にも便利である。[184]は時の内務相ルイー・デ・メディチ(1759—1830)までが嫌疑を受けた1794年の「ジャコバン派の陰謀事件」に関するもの。[188]はジャンセニズムからジャコバン主義に傾斜していったジュゼッペ・チェスターリ Giuseppe CESTARI (1751—1799)とジェンナーロ・チェスターリ Gennaro CESTARI (1753—1814)兄弟の研究が中心。[189]はポテンツァのジャコバン派の司教として名高いアンドレーア・セッラオ(1731—1799)の伝記的研究。[190]は亡命先のパリでナポリ事情の紹介に筆を揮ったフランチェスコ・サヴェリオ・サルフィ(1759—1832)に関するシンポジウムの記録である。「穏健派」関係では、[192]～

[194] 等がある。[192] は南イタリアのフリーメーソンの中心的人物でフィランジェーリの弟子として出発し、やがて王政復古期に首相となったドナート・トンマーゾ（1761—1831）の一種の転向を描いたもの。[193] と [194] は開明的な官僚（内務相）として激動の時代を生き抜いたジュゼッペ・ツルロ（1759—1828）に関する研究である。（1989年1月末日）

参考文献一覧

- [1] 堀田誠三：ベッカリーアをめぐる文献の諸問題，*経済科学*（名古屋大）28（2），（1980）。
- [2] 堀田誠三：ベッカリーアの経済思想，*社会思想史研究*（5），（1981）。
- [3] 堀田誠三：『犯罪と刑罰』の社会思想，*経済科学*（名古屋大）30（3），（1983）。
- [4] 堀田誠三：ベッカリーアにおける道徳感情とレトリック——『文体論』を中心に——。宮本憲一；大江志乃夫；永井義雄編：市民社会の思想——水田洋教授退官記念論集——。東京，御茶の水書房，1983所収。
- [5] 堀田誠三：ベッカリーアにおける「批判的経済学」の形成——ケネーからヒュームへ——，*思想*（722），（1984）。
- [6] Hotta, Seizo: Quesnay or Hume——Beccaria between France and Britain; *Studies on Voltaire and the Eighteenth Century* (245), (1986).
- [7] 堀田誠三：ミラノの貿易差額論争——ヴェッリ『政治経済学』の基本性格——。時永淑編：古典派経済学研究（Ⅵ），東京，雄松堂出版，1987所収。
- [8] Bentley, Jerry H.: *Politics and Culture in Renaissance Naples*. Princeton at the University Press, 1987.
- [9] 上村忠男：数学と医学のあいだで——ヴィーコとナポリの自然探求者たち——（特集 ヴィーコを読む）*思想*（752），（1987）（同著：ヴィーコの懐疑，東京，みすず書房，1988所収）。
- [10] Lauro, Agostino: *Il giurisdizionalismo pregiannoneiano nel Regno di Napoli. Problemi e bibliografia (1563—1723)*. Roma, Edizioni di Storia e Letteratura, 1974.
- [11] Cochrane, Eric: Southern Italy in the Age of the Spanish Viceroys—Some Recent Titles; *Journal of Modern History* LVIII, (1986).
- [12] Ajello, Raffaele: *Arcana juris. Diritto e politica nel Settecento italiano*. Napoli, Jovene, 1976.
- [13] Ferrone, Vincenzo: *Scienza Natura Religione. Mondo newtoniano e cultura italiana nel primo Settecento*. Napoli, Jovene, 1982.

- [14] Ajello, Raffaele et al. (eds.): *Politici ed economisti del primo Settecento*. Milano-Napoli, Ricciardi, 1978 [La letteratura italiana. Storia e testi, vol.44, Dal Muratori al Cesarotti, tom. V].
- [15] Rao, Anna Maria: *Napoli e la Rivoluzione (1789—1794); Prospettive Sessanta VII*, (1985).
- [16] Rao, Anna Maria: *Il Regno di Napoli nel Settecento*. Napoli, Guida, 1984.
- [17] Carpanetto, Dino; Ricuperati, Giuseppe: *L'Italia del Settecento. Crisi, trasformazioni, lumi*. Roma-Bari, Laterza, 1986.
- [18] Ricuperati, Giuseppe: *La storiografia italiana sul Settecento nell'ultimo ventennio; Studi storici XXIV*, (1986).
- [19] Lepre, Aurelio: *Storia del Mezzogiorno d'Italia*. 2 vols. Napoli, Liguori, 1986.
- [20] AA. VV.: *Storia di Napoli*. 10 vols. Napoli, Società editrice per la Storia di Napoli, 1967—1971.
- [21] AA. VV.: *Storia d'Italia*. 6 vols. (10 toms.) Torino, Einaudi, 1972—76.
- [22] Venturi, Franco: *Settecento riformatore*. Torino, Einaudi, 1969—
- [23] ヴェントゥーリ (Venturi, Franco): 啓蒙のユートピアと改革. 加藤喜代志; 水田洋訳. 東京, みすず書房, 1981.
- [24] *L'età dei lumi: Studi storici sul Settecento europeo in onore di Franco Venturi*. 2 vols. Napoli, Jovene, 1985.
- [25] Venturi, Franco: *Il movimento riformatore degli illuministi meridionali; Rivista storica italiana LXXIV*, (1962).
- [26] Villani, Pasquale: *Illuminismo e riforme nel Settecento napoletano, Critica storica III*, (1964).
- [27] Venturi, Franco: *Italy and the Enlightenment. Studies in a Cosmopolitan Century*. New York University Press, 1972.
- [28] *Bibliografia dell'età del Risorgimento in onore di Alberto Maria Ghisalberti*. 4 vols. Firenze, Olschki, 1971—77.
- [29] Bertarelli, Achille: *Inventario della raccolta donata al Comune di Milano. Risorgimento italiano*. 3 vols. Bergamo, Istituto Italiano d'Arti Grafiche, 1925 [Reprint: Nendeln (Lichtenstein), Kraus, 1974].
- [30] *Bolletino bibliografico per la storia del Mezzogiorno d'Italia*. Napoli,

Società Napoletana per la Storia Patria, 1979.

- [31] イタリア近現代史研究会編：イタリア近現代史文献目録。東京，イタリア文化会館，1980.
- [32] *Guida generale degli Archivi di Stato italiani*. Roma, Istituto Poligrafico dello Stato, 1982— .
- [33] Donno, C.G.; Pellegrini, V. (eds.): *Ricerche storiche e occupazione giovanile. Le fonti archivistiche per la storia del Mezzogiorno nell'età moderna e contemporanea*. Lecce, Milella, 1983.
- [34] *Dizionario biografico degli italiani*. Roma, Istituto dell'Enciclopedia Treccani, 1960— .
- [35] Martuscelli, Domenico (ed.): *Biografia degli uomini illustri del Regno di Napoli*. Napoli, 1814—30.
- [36] Tafuri, Giovanni Bernardino: *Istoria degli scrittori nati nel Regno di Napoli*. 9 vols. Napoli, 1744—70.
- [37] Giustiniani, Lorenzo: *Memorie storiche degli scrittori legali del Regno di Napoli*. 3 vols. Napoli, Stamperia simoniana, 1787—88.
- [38] Minieri Riccio, Camillo: *Memorie storiche degli scrittori nati nel Regno di Napoli*. Napoli, 1844.
- [39] Giustiniani, Lorenzo: *Biblioteca istorica e topografica del Regno di Napoli*. Napoli, 1793.
- [40] Giustiniani, Lorenzo: *Dizionario geografico ragionato del Regno di Napoli*. 13 vols. Napoli, 1797—1816.
- [41] De Seta, Cesare: *Napoli*. Roma-Bari, Laterza, 1981.
- [42] Venturi, Franco (ed.): *Riformatori napoletani*. Milano-Napoli, Ricciardi, 1978 [La letteratura italiana. Storia e testi, vol.46, Illuministi italiani, tom. V].
- [43] Lepre, Aurelio; Villani, Pasquale: *Il Mezzogiorno nell'età moderna*. Napoli, Guida, 1974.
- [44] Carpanetto, Dino: *L'Italia del Settecento. Illuminismo e movimento riformatore*. Torino, Loescher, 1980.
- [45] Capra, Carlo: *L'età rivoluzionaria e napoleonica in Italia 1796—1815*. Torino, Loescher, 1978.
- [46] Battaglini, Mario (ed.): *Atti, leggi, proclami ed altre carte della repubblica napoletana 1798 —1799*. 3 vols. Chiaravalle Centrale,

Frama Sud, 1983.

- [47] Barucci, Piero; Carpenter, Kenneth (eds.): *Italian Economic Literature in the Kress Library 1475—1850*. 2 vols. Roma, Banco di Roma, 1985.
- [48] Cossa, Luigi: *Saggi bibliografici di economia politica*. Bologna, Forni, 1963.
- [49] Franceschi Spinazzola, Dora (ed.): *Catalogo della Biblioteca di Luigi Einaudi. Opere economiche e politiche dei secoli XVI—XIX*. 2 vols. Torino, Fondazione Luigi Einaudi, 1981.
- [50] Custodi, Pietro (ed.): *Scrittori classici italiani di economia politica*. 50 vols. Milano, 1802—16.
- [51] Fornari, Tommaso: *Delle teorie economiche nelle provincie napoletane dal secolo XIII al MDCCXXXIV*. Milano, Hoepli, 1882.
- [52] Fornari, Tommaso: *Delle teorie economiche nelle provincie napolitane dal MDCCXXXV al MDCCCXXX*. Milano, Hoepli, 1888.
- [53] Pecchio, Giuseppe: *Storia della economia pubblica in Italia*. Lugano, G. Ruggia e C., 1829. [仏訳: *Histoire de l'économie politique en Italie*. Tr. par Léonard Gallois. Paris, A. Levassesseur, 1830].
- [54] Ricca-Salerno, Giuseppe: *Storia delle dottrine finanziarie in Italia*. 2 ed. Palermo, Alberto Reber, 1896.
- [55] Bousquet, Georges-Henri: *Esquisse d'une histoire de la science économique en Italie*. Paris, 1960. [G. H. ブスケー: *イタリア経済学抄史*. 橋本比登志訳. 京都, 嵯峨野書院, 1976].
- [56] Bianchini, Marco: *Alle origini della scienza economica—felicità pubblica e matematica sociale negli economisti italiani del Settecento*. Parma, Editrice Studium Parmense, 1982.
- [57] Parisi Acquaviva, Daniela: *Il pensiero economico classico in Italia (1750—1860). Criteri definitivi ed evoluzione storica*. Milano, Vita e Pensiero, 1984.
- [58] Augello, Massimo M. et al. (eds.): *Le cattedre di economia politica. La diffusione di una disciplina «sospetta» (1750—1900)*. Milano, Angelli, 1988.
- [59] Balletti, Andrea: *L'economia politica nelle Accademie e nei congressi degli scienziati (1750—1860)*. Modena, 1891. [Reprint: Bologna,

- Forni, 1966].
- [60] Torcellan, Gianfranco: Un tema di ricerca—le accademie agrarie del Settecento; *Rivista storica italiana* LXXVI, (1964).
- [61] Minieri Riccio, Camillo: Notizia delle Accademie istituite nelle provincie napoletane (1—5); *Archivio storico per le province napoletane* II—III, (1877—78).
- [62] Pennetta, Ercole: *L'azione delle Società Economiche nella vita delle provincie pugliesi durante il regno borbonico*. Bari, Società Editrice Tipografica, 1954.
- [63] Mastrojanni, E. Oreste: *Il Reale Istituto d'Incoraggiamento di Napoli MDCCCVI-MCMVI*, Napoli, 1907.
- [64] Dell'Orefice, Anna: *Il Reale Istituto d'Incoraggiamento di Napoli e l'opera sua 1806—1860*. Genève, Droz, 1973.
- [65] De Sanctis, Riccardo: *La nuova scienza a Napoli tra '700 e '800*. Roma-Bari, Laterza, 1986.
- [66] Re, Filippo: *Dizionario ragionato dei libri di agricoltura, veterinaria ed altri rami di economia campestre*. 4 vols. Venezia, Stamperia Vitarelli, 1808—09 [Reprint: Bologna, Forni].
- [67] Onorati, Niccolo Columella: *Memorie su l'economia campestre e domestica*. 3 voll. Napoli, Tipografia Flautina, 1818.
- [68] Ricuperati, Giuseppe: Giornali e società nell'Italia dell'Ancien Régime. AA. VV.: *La stampa italiana dal '500 all'800*. Roma-Bari, Laterza, 1976.
- [69] Di Rienzo, Eugenio: Intellettuali, editoria e mercato delle lettere in Italia nel Settecento, *Studi storici* XXIX, (1988).
- [70] Carano-Donvito, Giovanni: *Economisti di Puglia*. Firenze; La Nuova Italia, 1956.
- [71] Colapietra, Raffaele: Gli economisti settecenteschi dinanzi al problema del Tavoliere (I—II); *Rassegna di politica e storia* 58—59, (1959).
- [72] Lepre, Aurelio: Liberismo e protezionismo nel commercio dei grani. *Contadini, borghesi ed operai nel tramonto del feudalesimo napoletano*. Milano, Feltrinelli, 1962.
- [73] Villari, Lucio: Note sulla fisiocrazia e sugli economisti napoletani del '700. AA. VV.: *Saggi e ricerche sul Settecento*. Napoli, Istituto

Italiano per gli Studi Storici, 1968.

- [74] Villani, Pasquale: Il dibattito sulla feudalità nel Regno di Napoli dal Genovesi al Canosa. AA. VV.: *Saggi e ricerche sul Settecento*. Napoli, Istituto Italiano per gli Studi Storici, 1968.
- [75] Vecchio, Bruno: *Il bosco negli scrittori italiani del Settecento e dell'età napoleonica*. Torino, Einaudi, 1974.
- [76] Rao, Anna Maria: *L'amaro della feudalità. La devoluzione di Arnone e la questione feudale a Napoli alla fine del 700*. Napoli, Guida, 1984.
- [77] Placanica, Augusto: *Il filosofo e la catastrofe. Un terremoto del Settecento*. Torino, Einaudi, 1985.
- [78] Marino, John A: The State and the Shepherds in Pre-Enlightenment Naples; *Journal of Modern History* LVIII, (1986).
- [79] Marino, John A.: *Pastoral Economics in the Kingdom of Naples*. Baltimore-London, Johns Hopkins University Press, 1988.
- [80] Chiosi, Elvira: Intellettuali e plebe. Il problema dell'istruzione elementare nel Settecento napoletano, *Rivista storica italiana* C, (1988).
- [81] 北原 敦: 南イタリアのイェッタトゥーラ——民間慣行と「理性」のまなざし。福井憲彦編: 歴史のメトロロジー。新評論, 1984所収。
- [82] Massafra, Angelo (ed.): *Problemi di storia delle campagne meridionali nell'età moderna e contemporanea*. Bari, Dedalo, 1981.
- [83] Placanica, Augusto: *Alle origini dell'egemonia borghese in Calabria. La privatizzazione delle terre ecclesiastiche (1784—1815)*. Salerno-Catanzaro, Società Editrice Meridionale, 1979.
- [84] Placanica, Augusto; Mafrici, Mirella (eds.): *Il Mezzogiorno settecentesco attraverso i catasti onciari*. Vol.1, *Aspetti e problemi della catastrazione borbonica*. Vol.2, *Territorio e società*. Napoli, Editrice Scientifica Italiana, 1983—86.
- [85] Sofia, Francesco (ed.): *Salerno e il Principato Citra nell'età moderna (secoli XVI—XIX)*. Napoli, Editrice Scientifica Italiana, 1987.
- [86] Casini, Paolo: *Newton e la coscienza europea*. Bologna, Il Mulino, 1983.
- [87] Addante, Pietro: *Il movimento antibayliano nel Mezzogiorno d'Italia dal Piro al Genovesi*. Bari, Levante, 1982.
- [88] Ambri Berselli, Paola: *L'opera di Montesquieu nel Settecento italiano*.

Firenze, Olschki, 1960.

- [89] Rotta, Salvatore: Montesquieu nel Settecento italiano. Tarello, Giovanni (ed.): *Materiali per una storia della cultura giuridica*. vol.1. Bologna, Il Mulino, 1971.
- [90] De Mas, Enrico: *Montesquieu, Genovesi e le edizioni italiane dello "Spirito delle leggi"*. Firenze, Le Monnier, 1971.
- [91] Rotta, Salvatore: Voltaire in Italia. Note sulle traduzioni settecentesche delle opere voltairiane; *Annali della Scuola Normale Superiore di Pisa*, 1970.
- [92] Rota Ghibaudi, Silvia: *La fortuna di Rousseau in Italia (1750—1815)*. Torino, Giappichelli, 1961.
- [93] Rosa, Mario: Encyclopédie, Lumières et tradition au XVIII^e siècle en Italie; *Dix-huitième siècle* IV, (1972).
- [94] Venturi, Franco: Scottish echoes in eighteenth-century Italy. Hont, Istvan; Ignatieff, Michael, (eds.): *Wealth and Virtue. The Shaping of Political Economy in the Scottish Enlightenment*. Cambridge University Press, 1983.
- [95] Tarabuzzi, Gianfranco: Le traduzioni italiane settecentesche delle opere di W. Robertson; *Rivista storica italiana* XCI, (1979).
- [96] Baldi, Marialuisa: *David Hume nel Settecento italiano: filosofia ed economia*. Firenze, La Nuova Italia, 1983.
- [97] Gioli, Gabriella: Gli albori dello smithianesimo in Italia; *Rivista di politica economica* LVII, (1972).
- [98] AA. VV.: *Aspetti della formazione culturale di Adam Smith. La prima diffusione del suo pensiero nella dottrina italiana*. Verona, Stamperia Zandrini, 1980.
- [99] Venturi, Franco: Linguet in Italia; *Rivista storica italiana* XCIII, (1981).
- [100] Chiaramonte, José Carlos: Gli illuministi napoletani nel Rio de la Prata; *Rivista storica italiana* LXXVI, (1964).
- [101] Folena, Gianfranco *L'italiano in Europa. Esperienze linguistiche del Settecento*. Torino, Einaudi, 1983.
- [102] 奥田 敬: アントニオ・ジェノヴェージ〈外国貿易論〉——『グレート・ブリテン商業史』第1巻所収「商業汎論」からの抄訳と解題——, 三田経済学

- 研究 (33), (1986).
- [103] 奥田 敬: 18世紀ナポリ王国における「政治経済学」の形成——アントニオ・ジェノヴェージ「商業汎論」とその周辺——(上・下), 三田学会雑誌 79 (5~6), (1986~87).
- [104] 奥田 敬: 《商業の自由》の理念と現実——アントニオ・ジェノヴェージと1764年「大飢饉」, イタリア学会誌 (37), (1987).
- [105] Racioppi, Giacomo: *Antonio Genovesi*. Napoli, Morano, 1871. [Ristampa: Napoli, 1958]
- [106] Demarco, Domenico (ed.): *Studi in onore di Antonio Genovesi*. Napoli, L'arte tipografica, 1956.
- [107] Tanucci, Bernardo: *Epistolario*. Roma, Edizioni di Storia e Letteratura, 1980— .
- [108] Mincucci, Rosa: *Bernardo Tanucci ministro di Ferdinando di Borbone (1759—1776)*. Bari, Dedalo, 1967.
- [109] AA. VV.: *Bernardo Tanucci e la Toscana*. Firenze, Olschki, 1986.
- [110] Diaz, Furio; Guerci, Luciano (eds.): *Opere di Ferdinando Galiani*. Milano-Napoli, Ricciardi, 1975 [La letteratura italiana. Storia e testi, vol. 46, Illuministi italiani, tom. VI].
- [111] AA. VV.: *Ferdinando Galiani*. Roma, Accademia Nazionale dei Lincei, 1975.
- [112] Catucci, Mario: *Galianea. Ferdinando Galiani tra letteratura ed economia*. Roma, Bulzoni, 1986.
- [113] Di Tizio, Franco: *Ferdinando Galiani*. Chieti, Solfanelli, 1988.
- [114] 上原一男: 18世紀におけるイタリア主観価値説の形成——フェルディナンド・ガリアーニ, 早稲田政治経済学雑誌 (208/209), (1968).
- [115] 黒須純一郎: ガリアーニ『貨幣論』の基本構造, イタリア学会誌(37), (1987).
- [116] 川俣雅弘: Ferdinando Galiani の稀少性価値理論の歴史的位置について, 三田学会雑誌 81(2), (1988).
- [117] Lepre, Aurelio: Sul pensiero di Giuseppe Palmier. *Contadini, borghesi ed operai nel tramonto del feudalesimo napoletano*. Milano, Feltrinelli, 1962.
- [118] Arena, Giuseppe Antonio: *Stato e diritto in Giuseppe Palmieri*. Napoli, Liguori, 1968.
- [119] Tocci, Giovanni: *Terra e riforme nel Mezzogiorno moderno*. Bologna,

Patron, 1971.

- [120] Fusco, Antonio Maria: *Giuseppe Palmieri e la scienza economica del tempo suo*. Napoli, Giannini, 1979.
- [121] Vallone, Aldo (ed.): *Illuministi e riformatori salentini*. 2 vols. Lecce, Milella, 1983—84.
- [122] Cormio, Aldo: I problemi dello sviluppo del Regno di Napoli nelle opere di F.M. Briganti; *Annali della Facoltà di Magistero dell'Università di Lecce* II, (1972/73).
- [123] *Degli acquisti, et impieghi delle ricchezze monastiche*. [Ed. by Giuliana Iaccarino]. Galatina, Congedo, 1984.
- [124] Sisca, Alfredo: *Domenico Grimaldi e l'Illuminismo meridionale*. Cosenza, Pellegrini, 1969.
- [125] Luciano, Domenico: *Domenico Grimaldi e la Calabria nel '700*. Assisi-Roma, Carucci, 1974.
- [126] Giarrizzo, Giuseppe: *La storiografia meridionale del '700 Vico, la politica e la storia*, Napoli, Guida, 1980.
- [127] Arena, Giuseppe Antonio: *La rivolta di un abate—Francesco Longano*. Napoli, Liguori, 1971.
- [128] Venturi, Franco: Un bilancio della politica economica di Carlo di Borbone. L'Economia del Commercio di Napoli di Giovanni Battista Maria Jannucci; *Rivista storica italiana* LXXXI, (1969).
- [129] Jannucci, Giovan Battista Maria: *Economia del commercio del Regno di Napoli (1767—1768)*. [Ed. by Franca Assante]. 6 vols. Napoli, Giannini, 1981.
- [130] Moschetti, Cesare Maria: *Il Codice Marittimo del 1781 di Michele de Jorio per il Regno di Napoli*. 2 vols. Napoli, Giannini, 1979.
- [131] Petino, Antonio: Lo sviluppo del Mezzogiorno in un obliato riformatore del Settecento napoletano—Nicola Fortunato. AA. VV.: *Fatti e idee di storia economica nei secoli XII—XX. Studi dedicati a Franco Borlandi*. Bologna, Il Mulino, 1977.
- [132] De Gennaro, Giuseppe: *L'abate Ciro Saverio Minervini. Economista e storiografo pugliese del secolo XVIII*. Napoli, Jovene, 1975.
- [133] *La scienza della legislazione*. [Ed. by Vittorio Frosini]. 2 vols. Roma, Istituto Poligrafico e Zecca dello Stato, 1984.

- [134] *Riflessioni politiche su l'ultima legge del Sovrano che riguarda la riforma dell'amministrazione della giustizia*. Napoli, Michele Morelli, 1774 [Reprint: Napoli, Bibliopolis, 1982].
- [135] Cotta, Sergio: *Gaetano Filangieri e il problema della legge*. Torino, Giappichelli, 1954.
- [136] Mongardini, Carlo: *Politica e sociologia nell'opera di G. Filangieri*. Milano, Giuffrè, 1964.
- [137] Maestro, Marcello: Il contributo di Filangieri al pensiero di Benjamin Franklin in materia penale; *Rivista storica italiana* LXXXVI, (1974).
- [138] Suozzi, Michael: The Enlightenment in Italy—Gaetano Filangieri's Scienza della legislazione; *Studies on Voltaire and the Eighteenth Century* (155), (1976).
- [139] Bordini, Carlo: Interpretazioni sui pensiero sociale di Gaetano Filangieri; *Studies on Voltaire and the Eighteenth Century* (191), (1980).
- [140] Maestro, Marcello; Gaetano Filangieri and his laws of relative goodness; *Journal of the History of Ideas* XLIV, (1983).
- [141] Gentile, Francesco: Il destino dell'uomo europeo. Montesquieu e Filangieri a confronto; *Nord e Sud* XXX, (1983).
- [142] Becchi, Paolo: *Vico e Filangieri in Germania*. Napoli, Jovene, 1986.
- [143] *Della descrizione geografica e politica delle Sicilie*. [Ed. by Franca Assante & Domenico Demarco]. 2 vols. Napoli, Edizioni Scientifiche Italiane, 1969.
- [144] *Elogio storico del signor abate Antonio Genovesi*, Napoli, 1772 [Reprint: Napoli, Bibliopolis, 1976].
- [145] *Descrizione dello stato antico ed attuale del Contado di Molise*, Napoli, 1781 [Reprint: Bologna, Forni, 1973].
- [146] *Testamento forense*. 2 vols. Venezia, Antonio Graziosi, 1806 [Reprint: Napoli, Bibliopolis, 1976].
- [147] *Memorie storiche del mio tempo*. [Ed. by Domenico Demarco]. Napoli, Biblioteca degli «Annali di storia economica e sociale», 1970.
- [148] *Scritti sulla Calabria*. [Ed. by Augusto Placanica]. Napoli, Società Editrice Napoletana, 1987.
- [149] *Scritti sul Molise. Tom. 1, Descrizione di Contado di Molise*. [Ed. by

- Francesco Barra]. Napoli, Società Editrice Napoletana, 1987.
- [150] *Giornale di viaggio in Calabria (1792)*. [Ed. by Augusto Placanica]. Napoli, Società Editrice Napoletana, 1981.
- [151] Rainone, Corrado: *Il pensiero economico di Giuseppe Maria Galanti (1743—1806)*. Roma, 1968.
- [152] Galasso, Giuseppe: Genovesi e Galanti; *Rivista storica italiana* XC, (1978).
- [153] Rao, Anna Maria: Riformismo napoletano e rivoluzione: Giuseppe Maria Galanti; *Studies on Voltaire and the Eighteenth Century* (190), (1980).
- [154] Bordini, Carlo: Pauperismo e sperequazione delle ricchezze nel pensiero di Giuseppe Maria Galanti, *Rassegna storica del Risorgimento* LXVII, (1980).
- [155] Galasso, Giuseppe: L'ultimo feudalesimo meridionale nell'analisi di Giuseppe Maria Galanti, *Rivista storica italiana* XCV, (1983).
- [156] AA. VV.: *Giuseppe Maria Galanti nella cultura del Settecento meridionale*. Napoli, Guida, 1984.
- [157] Sofia, Francesco: Giuseppe Maria Galanti—nota su un convegno, un volume di saggi, un progetto di edizione completa; *Nord e Sud* XXXII, (1985).
- [158] Villani, Pasquale: Il testamento di Giuseppe Maria Galanti e l'inventario del «Gabinetto Letterario». *L'età dei lumi: Studi storici sul Settecento europeo in onore di Franco Venturi*, vol.2. Napoli, Jovene, 1985.
- [159] Firpo, Luigi: Francesco Mario Pagano; *La Provincia di Napoli* IX [Numero speciale per il decennale dell'Istituto Italiano per gli Studi Filosofici], (1987).
- [160] Solari, Gioele: *Studi su Francesco Mario Pagano*. Torino, Giappichelli, 1963.
- [161] Palombi, Elio: *Mario Pagano alle origini della scienza penalistica del secolo XIX*. Napoli, Giannini, 1979.
- [162] Moccia, Sergio: Die italienische Reformbewegung des 18. Jahrhunderts und das Problem des Strafrechts im Denken von Gaetano Filangieri und Mario Pagano; *Goldammer's Archiv für Strafrecht* CXXXVI,

(1979).

- [163] Cantimori, Delio: Vincenzo Russo. *Utopisti e riformatori italiani 1794—1847*. Firenze, Sansoni, 1943.
- [164] Galasso, Giuseppe: Il pensiero politico di Vincenzo Russo. *Mezzogiorno medievale e moderna*. Torino, Einaudi, 1965.
- [165] Romano, Ruggero: Vincenzo Russo e gli estremisti della Repubblica Napoletana del 1799. *Napoli: dal Vicereame al Regno*. Torino, Einaudi, 1974.
- [166] *Saggio storico sulla rivoluzione napoletana del 1799*. Roma-Bari, Laterza, 1976.
- [167] *Platone in Italia*. [Ed. by Fausto Nicolini]. 2 vols. Roma-Bari, Laterza, 1916—24.
- [168] *Scritti vari*. [Ed. by Nino Cortese & Fausto Nicolini]. 2 vols. Roma-Bari, Laterza, 1924.
- [169] Battaglia, Salvatore: *L'opera di Vincenzo Cuoco*. Firenze, Giunti-Marzocco.
- [170] Tessitore, Fulvio: *Lo storicismo di Vincenzo Cuoco*. Napoli, Morano, 1965.
- [171] Campanelli, C.: *Il realismo politico di Vincenzo Cuoco*. Napoli, Agea, 1974.
- [172] Cariddi, Walter: *Il pensiero politico e pedagogico di Vincenzo Cuoco*. Lecce, Milella, 1981.
- [173] 高下一郎: ヴィンチェンツォ・クオーコと受動的革命——『一七九九年ナポリ革命に関する史論』の研究(1・2), 法学論叢(京大)105(5~6), (1979).
- [174] *Opere complete di Melchiorre Delfico*. [Ed. by Giacinto Pannella & Luigi Savorini]. 4 vols. Teramo, Giovanni Fabbri, 1901—04.
- [175] Marino, Adelmo: *Scritti inediti di Melchiorre Delfico*. Chieti, Solfa-nelli, 1986.
- [176] Clemente, Vincenzo: *Rinascenza teramana e riformismo napoletano (1777—1798). L'attività di Melchiorre Delfico presso il Consiglio delle Finanze*. Roma, Edizioni di Storia e Letteratura, 1981.
- [177] Arurini, Raffele: *Melchiorre Delfico*. Teramo, Coop. Ars et Labor, 1958.
- [178] Broccolini, Giustino: *Il pensiero pedagogico di Melchiorre Delfico*.

Napoli, Editrice Scientifica Italiana, 1987.

- [179] *Saggio sulla popolazione del Regno di Puglia*. 2 vols. Napoli, 1820—39. [Reprint: Bologna, Forni, 1974]
- [180] *La mia vita (1764—1852)*. [Ed. by Alessandro Cutolo]. Milano, Hoepli, 1954.
- [181] Salvemini, Biagio: *Economia politica e arretratezza meridionale nell'età del Risorgimento. L. D. S. Cagnazzi e la diffusione dello Smithianismo nel Regno di Napoli*. Lecce, Milella, 1981.
- [182] Signorelli, Adriana: L'abate Cagnazzi e gli stati di popolazione del regno meridionale; *Rivista storica italiana* XCIII, (1981).
- [183] *Il Monitore Napoletano 1799*. [Ed. by Mario Battaglini]. Napoli, Guida, 1976.
- [184] Nicolini, Nicola: *Luigi De Medici e il giacobinismo napoletano*. Firenze, Le Monneir, 1935.
- [185] Frascani, Paolo: Matteo Galdi—analisi di una trasformazione ideologica durante il periodo rivoluzionario-napoleonico in Italia; *Rassegna storica del Risorgimento* LIX, (1972).
- [186] Borraro, Pietro (ed.): *Francesco Lomonaco. Un giacobino del Sud*. Galatina, Congedo, 1976.
- [187] Rainone, Corrado: Le condizioni socio-economiche del Regno di Napoli nei resoconti della «Gazzetta Civica Napoletana» (1784—1793). AA. VV.: *Fatti e idee di storia economica nei secoli XII—XX. Studi dedicati a Franco Borlandi*. Bologna, Il Mulino, 1977.
- [188] Ambrasi, Domenico: *Riformatori e ribelli a Napoli nella seconda metà del Settecento*. Napoli, Regina, 1979.
- [189] Chiosi, Elvira: *Andrea Serrao. Apologia e crisi del regalismo nel Settecento napoletano*. Napoli, Jovene, 1981.
- [190] De Lisio, Pasquale Alberto (ed.): *Francesco Saverio Salfi. Un calabrese per l'Europa*. Napoli, Società Editrice Napoletana, 1981.
- [191] Placanica, Augusto: Michele Torcia e il terremoto del 1783—storia naturale e riformismo politico; *Rivista storica italiana* XCV, (1983).
- [192] Feola, Raffaele: *Dall'illuminismo alla restaurazione. Donato Tommasi e la legislazione delle Sicilie*. Napoli, Jovene, 1977.
- [193] Savarese, Giacomo: *Tra rivoluzioni e reazioni. Ricordi su Giuseppe*

Zurlo (1759—1828). Torino, Einaudi, 1941.

- [194] Villani, Pasquale: Giuseppe Zurlo—la crisi dell'Antico Regime e la ricostruzione dello stato. *Mezzogiorno tra riforme e rivoluzione*. Roma-Bari, Laterza, 1973.

〔付記〕

本稿脱稿後、キエーティ大学の Massimo M. Augello 教授の御教示により、イタリアにおける近年の経済学史研究の文献目録として、Donati, Carla. “14 anni di storiografia sul pensiero economico: 1971—1984”, *Storia del pensiero economico. Bolletino di informazione*, 14 (1986). があることを知った。ここに記して同教授の御好意に感謝したい。尚、イタリアでは、この *Storia del pensiero economico* 誌（フィレンツェ大学経済学部編）の他にも、経済学史の専門誌として、*Quaderni di storia dell'economia politica* 誌がミラノの Franco Angeli 書店から1983年以来毎年3号ずつ刊行されており、その動向が大いに注目される。